

衛星観測に関する事業

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について の評価・質問など	温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT が運用され、CO ₂ やメタンなどのガスの分布の詳細な計測は大変貴重な成果であり、インパクトの高い論文も発表している。特に推定値と乖離したガスの濃度など、地球規模のリスクの理解や社会の変革にも繋がる成果である。	高く評価いただき、ありがたい。インパクトの高い成果を今後も出し続け、社会変革にも繋げられるよう、努力する。
	計画に沿って適切に、他機関と連携しながら事業が進められている。現状のモニタリングで重要な役割を果たすなど、国内外の研究に貢献し、国際的貢献も行っている。	ご評価いただきありがたい。今後も国内外の研究に貢献していく。
今後への期待など	インドにおいては、エアロゾル（大気中を浮遊する粒子状物質）についても地上検証に関する動きがあり、環境省や JICA などとも良く情報交換をして、調和的に、かつ結果として、基地設置や両国間の関係を向上させる形で進められることを期待する。他の国、地域についても同様である。	国際展開に関するご助言、ありがたい。環境省他と調整する。
	衛星観測の継続、地上検証データの取得、データの整備と発信等、非常に大変な仕事を継続している。国際的にも重要な貢献である。日本がこの課題でリードする衛星をひとつ維持することは大変重要である。	今後も「日本がこの課題でリードする衛星を維持」できるよう、GOSAT シリーズ 4 号機に向けて努力する。
	広くデータが利用される取り組みを進めてほしい。また、使用済みの衛星は宇宙デブリとなる場合、様々な世界的な影響を及ぼす可能性があり、その回収などについても次の計画に入れてはどうか。	「データ利用の拡大」については、日本版 GHG センターや国内企業による衛星データプラットフォームなどとも連携して検討する。GOSAT を打ち上げたロケットの残骸を使ったデブリ接近・撮影衛星の実験を民間企業が実施中であり、このノウハウの将来衛星への反映が期待される。

衛星観測に関する事業

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について の評価・ 質問など	限られた研究者や技術スタッフの献身的な努力で衛星観測に関する多岐にわたる研究や広報/アウトリーチ活動に取り組んでおり、多くの優れた成果が得られていると評価する。	ご評価いただきありがたい。今後も多方面での成果を挙げられるよう、努力していく。
	衛星観測による均質的な長期継続観測（リトリバル）と、新しい観測の追加を双方実現していくのは大変労力の必要なものである。	ご評価いただきありがたい。今後も観測体制を維持し成果を挙げられるよう、努力していく。
今後への期待 など	温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT-2 による CO、CH ₄ と CO ₂ のバックグラウンド濃度からの増分をもとに、CO ₂ 排出量から CO と CH ₄ の排出量推定が可能としたことは良い成果である。これを基にした排出量の推定と検証を進めていただきたい。打ち上げが延期されたが、GOSAT-GW の 2024 年打ち上げの成功とスムーズな運用開始を祈っている。	「CO と CH ₄ の排出量推定」については 2025 年度よりルーチン作業化に取り組む。また GOSAT-GW の打ち上げについては 2025 年度前半に延期された。この延期による時間的余裕を有効利用したい。
	他の機関との連携や、他のプロジェクトの連携が適切に行われており、多くの成果が出ている。成果をさらに社会の様々な研究に展開できる環境が整備できることを期待したい。	「成果をさらに社会の様々な研究に展開できる環境の整備」については現在設立準備中の「日本版 GHG センター」や国内企業による衛星データプラットフォームの活用に取り組む。
	継続的に GHG をグローバルに観測することは、極めて基礎的かつ世界への貢献が顕著だと考える。精度の向上、新たな物質に向けたセンサー開発など、期待は増すばかりである。	「精度の向上」については内外の専門家と連携し、(将来衛星用の)「センサー開発」についてはメーカーとの議論も進めたい。
	日本の宇宙開発が、米国、中国、さらにはインドよりもさらに遅れていることを危惧する。本事業にも、是非、がんばっていただきたい。	衛星 GHG 観測は日本の宇宙開発の中でも国際競争力を持つ分野なので、今後もそのアドバンテージを維持できるよう努力する。